

徳川家慶の江戸本郷邸に臨んだ時、召されて  
天目茶碗を焼いた。安政三年二月十一日歿  
し、弟道忠統を受けたが、明治三十二年道忠  
の歿するに及んで、大樋の正系断絶した。

**オホヒコノアトカクシ** 大ひこの跡隠し  
能登の奥郡では古く霜月廿四日小豆粥を食  
し、之を大ひこのあとかくしというたが、そ  
の義は明らかでない。

**オホビシイケ** 大菱池 シオビ 河北郡湯涌郷  
に属する部落。邑名は小菱池村との境に大池  
といふのがあるに因る。

**オホヒチヨウザエモン** 大樋長左衛門 初  
代長左衛門は明暦中京都二條瓦町に住し、樂  
一入齋吉兵衛に師事して製陶を學び、寛文六  
年茶人千宗室に伴はれて金澤に來り、大樋町  
に住して樂燒製造の事に従つた。是より大樋  
を氏とし、正徳二年正月廿一日歿、玄明一乘  
居士と諡せられ、月心寺に葬る。また二代長  
左衛門は前田吉徳宗辰二侯の命を奉じて製  
陶し、延享四年八月廿三日歿。三代以後は勤  
兵衛と稱した。

**オホヒノハス** 大樋の蓮 金澤の北端河北  
郡大樋は蓮を名産とし、七八月花盛の頃には  
雅客こゝに集りて白花の開くを見、又茶屋に  
憩うて蓮飯を賞翫した。蓮植栽の起原は詳か  
でないが、藩政中水田を潰すことを禁じたか  
ら、甚だしく擴張するに至らなかつた。

**オホヒマチ** 大樋町 金澤の町名。元は河  
北郡大樋村の地内で、郡奉行の支配であつた  
が、町建となつた爲、文政四年二月町奉行支  
配となり、大樋町と私稱した。但し地所は郡  
地で、地子米を村に收めて居たが、明治十二  
年金澤の町地に編入せられた。

**オホヒマチバナ** 大樋町端 金澤を通過す  
る北陸道の北端である。その郊外に茶屋があ  
つて、汁飴と蓮飯を名物としたが、市街の擴  
張するに従ひ、遂に街尾となつた。

**オホヒヤキ** 大樋燒 金澤大樋で製した樂  
燒の陶器。寛文六年前田綱紀が京都の茶人千  
宗室を招いた時、陶工長左衛門も從うて下り、  
宗室の考按に基づいて種々の茗器を製したに  
初る。その釉藥赤黄色にして光輝を發するを  
飴釉と稱し、又黒樂も造つた。後に日用雜器  
をも製し、藩末には系外のもの十餘家を數へ  
るに至つた。

**オホヒヤマジヨウ** 覆山城 能美郡中、峠に  
在つた。越登賀三州志に、塹土居の遺狀尙存  
するとある。

**オホヒヨウタンヤマ** 大瓢葦山 石川郡瀬  
波川の上流南方にある山。高さ一五四九米。  
山體は第三紀層。

**オホビヨウブ** 大屏風 能美郡別山の頂上  
から御前岳に向かふ路線のすぐ西方に近く立  
つてゐる岩塊をいふ。

**オホヒラ** 大平 羽咋郡鉦打郷に属する部  
落。

**オホヒラガハ** 大平川 羽咋郡大平の大平  
坂から出で、鳥越嶺で熊木川に落合ふ。流程  
四軒弱。

**オホヒラカベ** 大平壁 能美郡別山の頂か  
ら西南に向かうて別山室平に至る路線の東方  
に立つ大岩塊をいふ。このあたりは地勢急坂  
をなしてハヒマツが殊に多い。

**オホヒラサハ** 大平澤 オホヒ 石川郡富樫  
庄に属する部落。

**オホヒラサマノジヨウ** 大平左馬允 前田

利家に仕へ、利長の豊前巖石城攻撃の際には  
先登して秀吉から賞せられ、祿途に千百俵に  
至り、御旗奉行に任じ、金の番取衆に班した。  
その嫡統は第七代金太郎百五十石を領し、文  
化十二年三月四日出奔の上立歸つて知行を召  
放された。

**オホヒラサマノジヨウ** 大平左馬允 又左  
馬介に作る。諱は秀照。父の名も左馬允。初  
め祿千俵を受けたが、後五百五十石となつ  
た。慶長十九年大坂冬の役に足輕頭を勤め、  
御旗奉行を兼ね、夏役には二一丸で首一つを  
獲た。

**オホヒラユキタダ** 大平以忠 通稱鐵次郎。  
梅千助・金太夫・欣太夫。安永九年新番に列  
し、天明二年新知百石を得て組外に進み、前  
田重政の近習に任じ、三年八月廿八日遠島の  
刑に處せられ、四年三月十一日配所に赴き、  
五年十一月免されて歸り、又新番に復し、寛  
政六年十二月父直右衛門恒政の遺知百石を受  
けて組外となり、諸職を經、文化八年五十石  
を加へ、定番御馬廻に班して遂に物頭並に進  
み、文政九年六十一歳を以て歿した。子此母  
守道後を襲いだが、天保二年七月出奔の上立  
歸つて知行を召放された。

**オホブンギヨウ** 大分校 江沼郡能美境に  
属する部落。明治中に至り、小分校と併せて  
分校とした。

**オホマチ** 大町 鹿島郡大町保に属する部  
落。越登賀三州志來因概覽に、永正十三年三  
月吉日長谷我野院僧正義範在判で、大町村公  
文所に宛てた公文永代寄進の一通があつたと  
記する。

**オホマチ** 大町 鳳至郡穴水郷之内大屋庄

に属する部落。隣邑川島と共に惣稱して穴水  
ともいふ。天文元年七月諸橋六郷南北棟敷注  
文に廿五間(軒)穴水大町とあつて、當時尙微  
微たる形勢であつたことが知られる。

**オホマチ** 大町 鳳至郡本郷に属する部落。  
明治中に至り東大町と改稱した。

**オホマチ** 大町 鳳至郡浦上の内の小字。  
**オホマチ** 大町 珠洲郡大町泥木の内の小  
字。

**オホマチガハ** 大町川 鹿島郡四柳の東方  
山間から出で、大町を經、西流して邑知瀨に  
入る。

**オホマチジヨウ** 大町城 鳳至郡本郷の大  
町に在つた。城主は明らかでない。

**オホマチドロノキ** 大町泥木 珠洲郡直郷  
に属する部落。もとは大町と泥木と二邑であ  
つた。

**オホマチホ** 大町保 鹿島郡にあつた。承  
久三年注進の能登國田數日録に、『大町保、壹  
町七段七、承久元年檢注定』とある。後世亦  
大町保がある。

**オホマチホ** 大町保 鹿島郡に属し、藩政  
時代では大町村のみを含んで居た。

**オホマチヤクシ** 大町薬師 ↓ライコウジ  
來迎寺(鳳至)。

**オホマルヤマ** 大丸山 鳳至郡内保のうち  
根子屋の南にある山。高さ三一九米。

**オホマルヤマ** 大丸山 鳳至郡太田川部落  
の北方なる海岸の山。高さ七一米。山體第三  
紀層。

**オホミガハ** 大海川 羽咋郡の寶達山から  
源を發し、寶達小字野田の南方に至つて南折  
し、上河合の東南で澤川の地藏谷から發する

オホ